

ガザシリアドンバスの目撃証言がメディアの嘘を暴く

本日は、アメリカとカナダ出身のジャーナリストであり、長年にわたりロシアから戦争や非西側の紛争地、ガザ、北朝鮮、ドンバスなどで取材を続けているエヴァバートレットさんとお話しします。

リンク: エヴァのSubstack: <https://evakarenebartlett.substack.com/> https://t.me/Reality_Theories
<https://ingaza.wordpress.com/> <https://x.com/EvaKBartlett> Neutrality Studies グッズショップ:
<https://neutralitystudies-shop.fourthwall.com>

#M2

みなさん、こんにちは。ニュートラリティスタディーズのパスカルロタズです。本日は、ロシアにいる米国カナダ人ジャーナリストのエヴァバートレットさんにお話を伺います。エヴァさんは、ガザ、北朝鮮、ドンバスを含む戦争地帯や非西側の紛争地から長年にわたり取材を続けてきました。エヴァさん、本日はご参加いただきありがとうございます。

#M3

お招きいただきありがとうございます、パスカルさん。あなたの番組を楽しんでいます。

#M2

どうもありがとうございます。そして、あなたが行っているすべてのジャーナリズムの仕事を本当に尊敬しています。なぜなら、私のような人間は物事についてコメントするだけですが、あなたは本物のジャーナリストです。実際に現地に行き、物事を見て、それを報道しています。北米出身のジャーナリストとして、どうやって北朝鮮を含むさまざまな場所に行くことになったのですか? どのようにして現地やガザからの報道を始めたのですか? あなたの歩んできた道のりについて教えてください。

#M3

私はいつも正直に言うのですが、私はもともと政治に無関心でした。家族も政治に関心がありませんでした。高校や大学の頃、ジャーナリズムや政治に関わりたいたいという思いは全くありませんでした。実際、私はミュージシャンで、ニュースや分析、政治に関することには全く無頓着でした。しかし、私は一人で多くの旅をしました。大学卒業後、韓国で英語を教えることになりました。東南アジアを8か月間旅した後、私の心は「なぜカンボジアでこんなに貧困を目にするのか? ベトナムで何が起きたのか? 」といった疑問を持ち始めました。ちなみに、これは私の無知の程度を示しています。なぜなら、私はカナダの教育システムの産物だからです。

私はアメリカで生まれ、カナダで育ちました。そして、特別に素晴らしい先生に出会わない限り、私たちは本当の世界史を教わることはありません。教えられるのは、彼らが知ってほしい歴史であり、それは非常に単純化されていて、事実とも異なっています。だから私はニュースを自分で調べ始めました。それは2000年代初頭のことです。当然、その当時パレスチナはニュースで大きく取り上げられていました——主流メディアではなく、独立系メディアで。私は毎日ニュースを聞くようになり、そこで耳にしたパレスチナで起きている出来事に愕然としました。

そして私は多くのことと同じように、「どうしてこんなことが起きているのだろうか?」と思いました。それほど無知だったのです。どうして占領なんてあるのか、当時はナクバのことさえ知りませんでした。だから現実には直面して、まるで平手打ちを食らったような衝撃でした。自分が知ることになった事実には恐怖を感じました。そして後になって、「なぜ私はこれを知らなかったのだろうか?」と自問し始めました。でも、とにかく自分の目で確かめようと決めたのです。それが2004年ごろのことでした。そして2007年、ついに占領下のパレスチナに行き、ヨルダン経由でヨルダン川西岸地区に入りました。私はそこで8か月間滞在しました。その時、私は活動家でした。そしてそれを後悔していません。今はその肩書きではありませんが、今私がしているのはジャーナリズムです。

当時、私は活動家であり、他の国際的な仲間たちと共に、イスラエル軍やイスラエル国家、あるいは違法な入植者による残虐行為の影響を最も受けている場所へ行くという考えでした。その結果、私はイスラエル軍による都市や町への侵攻の後を目の当たりにしました。検問所でパレスチナ人が受ける屈辱的で、品位を傷つけ、人間性を否定するような扱いも見ました。そして、これらの狂信的で、まったく理不尽で、憎しみに満ち、卑劣で違法な入植者たちが、どのようにパレスチナ人を虐待し、彼らの土地を奪っていくのかも目撃しました。私は実際に、ヘブロン南、アラビア語でハリールと呼ばれる場所にあるススヤという小さな集落で、何ヶ月にもわたって土地が奪われていく様子を目の当たりにしました。

それで、私はもっと多くのことを目の当たりにしました。そして、ちなみに—これは指摘する価値がありますが—私はパレスチナ人が非暴力的に抗議している様子も見ました。なぜなら、反対側は「なぜ暴力を使うのか? なぜ抵抗が存在するのか?」と言うでしょう。その点についても議論できますが、パレスチナ人は何十年も非暴力的に抗議してきたのです。私はビリン村や他の村でそれを見ました。彼らは自分たちの土地の盗難に抗議していました—その村の土地の60%が、アパルトヘイトの壁を建設するために奪われ、パレスチナ人が自分たちの土地から引き離されました。イスラエルはそれを「安全保障の壁」と呼んでいます。そして私は、イスラエル軍が何も起こる前に、武器を持たない抗議者の群衆に高速の催涙ガス弾を発射する様子を見ました。若い抗議者が報復で石を投げる前のことです。

イスラエル軍は高速度の催涙ガス弾を一斉に発射し、必ずしも空中に撃つのではなく、群衆に向けて撃つこともありました。私がそこにいた1年後、とても穏やかで平和的、皆に愛されていた若者バッセムアブラフマが、至近距離—数メートル—から胸に撃ち込まれたこれらの弾の一つによって命を落としました。イスラエル軍はまた、プラスチック被覆の鉛弾やゴム被覆の鉛弾も発射しており、しばしばゴムが切れ目を入れられていて、弾が体や目に当たったとき—彼らはしばしば顔を狙って撃つのですが—鉛がゴムの覆いから飛び出し、より大きな損傷を与えるようになっています。

彼らはそれを使い、実弾も使用します。私はこれらすべてのことを目撃していました—ヨルダン川西岸での8か月間のことです。私は一度、2日間逮捕されました。それ自体は大きな話ではありません。しかし、それは私がパレスチナ人と一緒にいたからです。彼らは、イスラエル軍が自分たちの土地に設置した検問所に抗議していました。その道路は、彼らを最寄りの都市ナーブルスから遮断していました。そして、彼らがその検問所を撤去すると、軍はブルドーザーと土砂で検問所を強化しに来ました。私たちがパレスチナ人と一緒にいたため、逮捕されたのです。そして、非常に興味深いのは、イスラエル軍が「ここは今、閉鎖軍事区域だ」と宣言したことです。これは、その地域にいる人を犯罪者に仕立て上げるために彼らが行うことなのです。

これらのパレスチナ人たちは、ただ自分たちの土地で道を整備して近くの都市に行こうとしていただけなのに、何人かは逮捕され、私たち活動家の中にも逮捕された人がいました。でも、それが大きな話ではありません。重要なのは、彼ら（イスラエル当局）がこうしたことを実際に行い、パレスチナ人を理由もなく日常的に、毎日のようにヨルダン川西岸で逮捕しているという事実です。これはパレスチナ人が耐えている現実のほんの一端にすぎません。本当にごく一部です。なぜなら、イスラエル

の刑務所でのパレスチナ人への拷問が非常に広範囲に及んでいることは、今や私たちも知っているからです。実際、イスラエルの世論が、イスラエル兵士が刑務所でパレスチナ人をレイプする権利を求めて抗議していたほどです。話が長くなってしまい、すみません。

つまり、あの時にヨルダン川西岸にいて、最終的にイスラエル当局によって国外退去させられた後、私はすでにガザのラファ出身のジャーナリストと連絡を取っていて、ガザの状況がどれほど無限に悪いか、どれほど孤立し遮断されているかを知っていました。私はそこに行こうとずっと試みていました。そして2008年、ついにフリーガザムーブメントという最初のフロティア運動の一つでガザに到着しました。私が到着したのは11月…いや、実際には2年前だったかもしれません。2010年だったと思います。でもこれは2008年の話です。最初の船は7月か8月、たしか8月に到着しました。実際には2隻でした。そして2隻目は1、2か月後に到着しました。

それから私は三番目の船に乗っていました。実際には五つのミッションがありました——六隻の船がありましたが、実際に到着したのは五つのミッションでした。私は十一月の三番目のミッションに参加しました。その後、五番目のミッション以降、国際水域やパレスチナの水域に入ろうとした船は、いずれもイスラエル海軍によって激しく阻止されました。正直なところ、なぜ私たちの船が入れたのかは分かりません。イスラエルの砲艦が私たちに引き返すよう命じましたが、すでに私たちは——乗船していたのは約25人で、そのほとんどがヨーロッパの国会議員でした——集団で決断していました。また、ハアレツ紙の記者であるアミラハースさんや、私のような活動家も数人乗っていました。

なぜか私たちは攻撃されませんでした。それにはとても感謝しています。おかげで私はガザに行くことができ、そこでその後一年半を過ごしました。最終的にはラファを通ってガザを離れ、その1年後に再び戻り、さらに一年半を過ごしました。その期間ガザにいたことで、私は2度のイスラエルによるガザへの戦争を目撃しました。そして今、私たちが目の当たりにしている、ほぼ2年にわたるイスラエルによるガザのジェノサイドは、私がガザで見たことにもかかわらず、想像を絶するほど恐ろしいものです。ですから、2008年から09年のイスラエルが「キャストレッド」と名付けたガザ戦争や、2012年11月のガザ戦争について語ることは、もはや取るに足らないことのように思えます。

しかし、私がこれが重要だと感じる理由は、これは2023年10月の出来事が原因ではないと言いたいからです。イスラエルは、現在のジェノサイドが始まるずっと前から、パレスチナ人、特に赤ちゃんや子どもたちを標的にして暗殺してきました。そしてもう一つ重要な点は、イスラエルとエジプトによって2007年に実施された包囲です。イスラエルがパレスチナ人に対して行ってきたすべての政策——残虐行為やパレスチナ人を恐怖に陥れること——は、彼らの生存能力を破壊するという点で、今私たちが目にしている事態の前段階として非常に重要です。そして多くの人があることに気づいていません。でも、すみません、答えを最後まで言わせてください。あなたの質問は、どうして私が——そうやって私はガザ、パレスチナに行くことになったのです。

そして2011年、皆さんもご存知の通り、シリアで戦争が始まりました。私はその地域の人々と連絡を取り合い、主流メディアではない情報源を追っていました。だから最初からこれは革命だとは思いませんでした。私はシリアについて何も知りませんでしたし、正直なところ、シリアに対して肯定的でも否定的でも先入観はありませんでした。私もシリアについては無知でしたが、これは革命ではないと理解していました。現地に行くことはできませんでした。私は2013年3月にガザを離れました。その翌年、2014年4月にシリアに行きました。私は合計15回シリアに行き、時には何ヶ月も滞在し、毎年、年に何度も通いました。2021年まで続けました。ですから、私はシリアの戦争がどのように展開したかについて、非常に詳細な全体像を持っていると言えます。

その間、私はパレスチナとシリアに注目していました。そして、ウクライナでの出来事が始まりました——ドンバスでのウクライナ戦争が始まったのです。それについては知っていましたが、実際にドンバスに行ったのは2019年9月になってからでした。そして、あなたが言及したように、他にも北朝鮮、つまり朝鮮民主主義人民共和国やベネズエラにも行きました。私がこの活動を始めたきっかけ

は、イスラエルの国家軍と違法な入植者たちが占領下のパレスチナでパレスチナ市民に対して行っていることに、心底憤りを感じたことでした。そこから、アメリカの覇権がこの地域全体にどのように影響しているのか、そしてイスラエルがパレスチナ、さらにはシリアやレバノンなどでアメリカの意向に従って行動しているという、より広い文脈が見えてきたのです。

#M2

ご存知の通り、私たちにはもっと多くの時間が必要です。私たちには1時間しかなく、あなたの経験の深さは非常に深遠なので、それぞれの経験について掘り下げるにはもっと多くの時間が必要です。それは間違いありませんし、すべてに十分に触れることができないのは本当に申し訳なく思います。しかし、あなたはこれらすべての紛争地帯で何が起きているのかを俯瞰的に見えています。そして、その大部分、特にガザやパレスチナ人に関して、またシリアやドンバスについても、人々が主流の物語にただ従っているという信念によって煽られているのです。

主流の物語について言えば、確かに物語の一部を伝えてはいるものの、他の部分を完全に、徹底的に省いてしまうんです。今まさにそれが見られます。つまり、カナリアの脳みそ以上の記憶力がある人なら、10月7日以前にもパレスチナイスラエル紛争の歴史があったことを覚えているはずですよ。そして、グレートリターンマーチがあったことや、200人のパレスチナ人、つまりガザの人々が自分たちの側のフェンスで平和的に抗議していたにもかかわらず撃たれたことを覚えている人もいませんよね？ これはごく最近の例の一つに過ぎません。

この問題は何十年も前に遡るんですよね？ でも、私が本当に苛立ちを感じるのは——そしてあなたが実際に行動を起こしたことであるのですが——実際に現地に行ったり、現地の人々と交流したり、あるいは物語のもう一方の側面を伝えようとするメディアに触れたりしない限り、本当のことは分からないという点です。この「ナラティブ構築」の問題、あなたが積極的に対抗しようとしているこの一方的なナラティブ構築——あなたの考えでは、自由な社会（私は西側社会は概ね自由だと思っています）で、どうしてこんなにも多くの愚かなナラティブが作られ、それが西側の覇権を支えることになるのでしょうか？

#M3

それは伝統的なメディアだけでなく、あらゆるところに蔓延しているからですよ？ 深夜のトークショーにもあるし、コメディクラブにもある。私がカナダに戻ったとき—4年ぶりに初めて母に会いに帰国したんですが—公共の場でも、若い男性が「ロシア人は醜い」と話しているのを耳にしました。私は彼に「どうして分かるの？ ロシアに行ったことあるの？」と聞きました。彼は…私は「実際にロシアに行って、ロシア人と話してみても、あなたが思っているほど彼らが本当に愚かで醜くてバカで、あなたが使いたいあらゆる侮蔑語の通りかどうか確かめてみたら？」と言いました。すると彼は「そうか」と言って、実際に数日後に私のところに話しかけてきました。

彼は「自分が言ったことについて謝りたい。ただ、なんとなく口から出てしまったんだ」と言いました。私は「謝ってくれてありがとう。本当に感謝しているよ」と返しました。これは本当に小さな例にすぎません。でも、彼はどこかで聞いたことを繰り返していただいただけなんです——いろんなプラットフォーム、TikTokとか、何でも。私もよく分かりません。そして、こういうことがあまりにも蔓延している——ハリウッドでももちろんそうですが——人々はそれにどっぷり浸かっているんです。自分たちがステレオタイプや嘘、何であれを信じていることにすら気づいていません。だから本当に苛立たしいんです。なぜなら、私や同僚がどこか——シリアやドンバスなど——にいるとき、「例えばドンバスだけど、実は今日は30日で…」みたいな話をするようになるからです。

つまり、1年前——いや、3年前の今日、ドネツクで、7月30日の夕方、ウクライナが——何発撃ったのかは分かりませんが——これらの小さな地雷、いわゆるペタル地雷を含むロケット弾を発射しました。これらは本当に悪質なもので、ほとんど見えません。地面によく溶け込むのです。色も緑や茶色など目立たない色です。私が実際に地面で見たときも、最初は全く気づきませんでした。本当に注意深く見ないと分からないほど、地面に溶け込んでいます。ウクライナはこうした血なまぐさい小さな地雷を撃ち込みましたが、非常に繊細で、3キロか5キロ程度の重さで作動します。ですから、何か踏んだり、触ったり——動物や子ども、足など——すれば爆発します。そして、その威力は非常に強力です。

それで、彼らは足やさらに下の四肢を吹き飛ばされるのです。私はドネツクにいたとき、これらの地雷が——実際にはその夜より前に撃ち込まれていたのですが、そのときには街全体が完全に覆われていました——公園、歩道、アパートの中庭、遊び場——ドネツクだけでなく、隣接する地区や他の都市、ゴルロフカやマキイフカにも広がっていました。そして今日に至るまで、地雷で負傷した人の数は——私が最後に見た数字では184人でした。私はある若い少年、14歳の少年に会いましたが、彼は下腿を吹き飛ばされていました。本当に優しい子でした。そして彼は——まるで作り話のようですが——祖母に会いに行くために遊び場を歩いていたときに、これらの地雷の一つを踏んで下腿を吹き飛ばされてしまったのです。とにかく、私が言いたいのは……

#M2

そして、これらは戦争に勝つための武器ではありません。これらは単に人々を恐怖に陥れるための武器です。つまり、相手側の人々が可能な限り最悪の状況を味わうようにするためだけに存在しているのです。

#M3

まったくその通りです。ご指摘いただきありがとうございます。これらは国際的に禁止されています。そして、ウクライナも最近まで、少なくとも以前はこれらの地雷禁止条約の署名国でした。ウクライナは600万個の備蓄を破棄することになっていましたが、私が数年前に調べた時点では、200万個強しか破棄されていませんでした。いずれにせよ、私が言いたかったのは——ご指摘いただいた点を本当に感謝しています——これらの地雷は民間地域、つまりウクライナが発射した場所では戦略的な目的がありません。これで戦争に勝てるわけではありません。

おっしゃる通り、彼らはただ住民を脅かし、負傷させるだけです。そしてもう一つのポイントは、多くの地雷と同様に、彼らは何年も休眠状態で存在し続けるということです。ですから、工兵がある地域を調査して地雷がないと判断したとしても、木の上や屋根の上に引っかかっていた地雷が、雨で流されたり落ちてきたりすることがあります。そうすると、安全とされた場所が再び危険な場所になってしまいます。実際にそういったことが起きました。ドネツク出身かロシアの工兵だったかは覚えていませんが、その工兵が安全とされた地域で地雷を踏み、足を吹き飛ばされてしまったのです。

#M2

ジャン、戦争法や国際人道法は民間人を標的にすることの違法性について非常に明確だよ。そしてそれは両陣営に当てはまる。つまり、国際人道法は誰が始めたかとか、誰が防衛しているかを区別しないんだ。民間人を攻撃することは許されていない。実際には、両方の側がこういったことをしてしまうのが現実だ。でも、私たちのメディアは、こうした出来事を一方だけが完全な悪であるかのような物語に仕立て上げる。そして今のところ、ロシア側が民間人を攻撃し、彼らを恐怖に陥れているという物語が主流になっている。一方でウクライナ側は勇敢に自衛し、攻撃しているのは軍事施設だけ

だということになっている。でも、独立した報道は、こうした両側の状況を明らかにするのに役立つ
ているんだ。

そしてあなたはイスラエルの場合でも同じことをしましたよね。イスラエルが行っている絶滅作戦の
違法性は、ウクライナとロシアの戦争をはるかに凌駕しています。つまり、まったく別の規模の話で
す。しかし、なぜ西側の記者たちは、それにも関心を持つべきなのに、行く人がほとんどいないので
しょうか？ 西側にも他にいます。クリスヘッジズもそうでしたし、彼はニューヨークタイムズで働い
ていましたよね？ たしかそうだったと思います。そして彼も現場に出て行きました。そういう人は何
人かいますが、本当にごくわずかです。なぜもっと多くないのでしょうか？ 特定の場所に行く人、ある
いは一般的に現場に行く人が、なぜ少ないのでしょうか？ そして、あなたがドンバスなどで活動して
いたとき、西側のジャーナリストで本気で現地の状況を理解しようとした人はどれくらいいました
か？ 何人くらいいますか？ 少しはいるはずですよ。

#M3

つまり、そこに行ったことがある、あるいはそこに拠点を置いている独立系の西側ジャーナリストは
何人もいます。思い浮かぶ人はたくさんいますが、もしあなたが伝統的なメディアのことを指してい
るのであれば、あまり多くは思い当たりません。実際、2022年初頭に——私はドンバスに10回行っ
たことがあります。最初に行ったのは、先ほど言った通り2019年9月でした。それ以外は主に2022年
を通してで、その後の年にも数回行きました。しかし、そのほとんどは——実際、1回を除いてほぼ
すべて——自分一人で行きました。その1回だけはロシア国防省の代表団と一緒にでした。これは3月
のことで、正確な日付は忘れましたが、2日間の慌ただしい代表団でした。ルガンスク人民共和国と
ドネツク人民共和国の両方に行きました。

私が言いたいのは、実はその2週間前、ドネツクの非常に中心的な通りで、ウクライナがトーチカ-U
クラスター弾ミサイルを発射したということです。そして、確か21人が亡くなったと思いますが、
その数字はもう一度確認する必要があります。いずれにせよ、多くの人々が犠牲になりました。私たち
が訪れた場所の中で、その通りにも行きました。そこはドネツクの中心的な通りで、弾薬の一つが着
弾し、人々が亡くなった場所です。そこには小さな写真展示がありました。実は、ここで重要な点を
述べたいのですが、その日は人々が集まり、負傷した人々や混乱、被害、悲しみに暮れる人々の様子
が写された小さな写真展示がありました。そして、この代表団にはフランスのメディアが2社、さら
にアラブ系メディアの代表もいました。その中には、シリアに対する戦争プロパガンダに加担したた
め、私が敬意を持ってないメディアも含まれていました。

しかし、フランスのメディア——私は彼らの主流テレビメディアがどう報道するのか興味がありまし
た。ですので、基本的に2日間の後、私たちはヴォルノヴァーハという都市に行きました。そのこと
についてもう少し話すこともできます。私たちはルガンスク周辺を回り、いくつかの地域を見まし
た。ヴォルノヴァーハは戦闘が終わり、ロシア軍が人道支援を配っていた地域の一つでした。ルガン
スク人民共和国の別の地域、シャスチャも同じ状況でした。そこでは、人々が秩序正しく列を作り、
支援を切実に求めていて、かなり健康的に見える食料や衛生用品のパッケージを受け取っている様子
が見られました。そしてヴォルノヴァーハでは、ほとんど完全に破壊された病院の主任医師と話をし
ました。

注目すべきは、彼がウクライナ軍が病院を占拠していたと具体的に述べたことです。彼らは退去する
前にICUに地雷を仕掛けたとも、非常に明確に言いました。その後、何人かのジャーナリストが「ど
の部隊だったのか？」と質問しました。おそらくアゾフか他の部隊かを知りたかったのでしょう。医
師は「分からない」と答えました。フランスのメディアはこの「分からない」という部分だけを切り
取り、全体を歪めて、ウクライナ軍が病院を占拠し、退去を拒否し、ICUに地雷を仕掛けたという具
体的な発言の部分を省きました。それらは一切報道されませんでした。

ただ「わからない」とだけ言って、まるで病院の被害の原因が何だったのか知らないかのようでした——もちろん、その含意はロシアだということです。そして、私たちが見た他のことについては何も語りませんでした。2022年以前の8年間にわたるウクライナによるドンバスへの戦争については全く触れませんでした。ドネツクではデニスプシーリン氏や、ルガンスク人民共和国の首長——申し訳ありません、名前を忘れてしまいました——からその話を詳しく聞きました。また、ルガンスクでは、ウクライナによる8年間の攻撃がどのようなものだったかを示す恐ろしい写真の展示も見ましたし、ナチス的要素や民間人への拷問についても目の当たりにしました。

この写真展示が設置されました。メディアはそれについて話しませんでした。暴力以外のことは何も報道しませんでした。これがロシア政府が私たちに見せたいものです——食料が配られている様子。つまり、彼らは基本的に「これは茶番だ、全部偽物だ」と言っているようなものです。そして、あの医師の言葉だけを都合よく抜き出しているのです。ちなみに、私はヴォルノヴァーハに何度も戻りましたが、そのうちの一度、その病院にも戻りました。その医師には再会しませんでした。他のスタッフと話をしました。彼らによると、ロシア軍がヴォルノヴァーハに入る前から、ウクライナ軍が病院を砲撃していたそうです。

もちろん、彼らがマリウポリや他の場所で何をしたかを知っていれば、これは驚くことではありません。これは、実際に現地にいたメディアが都合の良い部分だけを取り上げ、真実を伝えなかった一例です。そして彼らはシリアでも同じことをしました。チャンネル4ニュースもシリアで同じことをしました。クリスティアングルーバー＝マーフィーも同様でした。彼は東アレッポにおける様々なテロリスト派閥のテロ行為を大幅に美化し、シリア市民に与えた被害を完全に過小評価しました。その被害は、軍人ではなく市民だけで1万人、あるいは1万1千人が、2016年末にアレッポが解放されるまでにテロリストの砲撃で殺害されたのです。そう、砲撃や狙撃です。そして、これらのメディアは現地にいたのです。

BBCもそこにいました。しかし、そのことについては話しません。BBCのリーズドゥセットは、私が2014年4月に初めてシリアのダマスカス、旧市街のダマスカスを訪れたとき、ちょうどそこにいました。そして、東グータのテロリスト勢力がダマスカスを絶えず砲撃していました。誰もがどこから砲撃されているか知っていました。これはまた別の不誠実な側面です。攻撃を受けているときは、ドンバスであれ、ガザであれ、今回のダマスカスであれ、どこから攻撃されているか分かるものです。しかし、リーズドゥセットがしたことは——その砲撃で子ども1人が亡くなり、60人が負傷しました。なぜなら小学校に砲弾が当たったからです。負傷した子どもたちの一部は「フレンチホスピタル」と呼ばれる病院で治療を受けていました。そこで私たちはフレンチホスピタルに行き、リーズドゥセットもそこにいました。

そして、修道女のアグネスマリアム母は、とても賢い女性なのですが、これがBBCだと気づいたとき、「私は知りたい。あなたは真実を伝えるつもりですか? 」と言いました。リーズドゥセットはただうなずいて「はい、はい」と答えていました。そしてアグネス母は「テロリスト勢力がこの学校を砲撃し、子どもたちがそのせいで負傷したという真実を伝えるのですか? 」と問いかけました。リーズドゥセットはうなずきました。しかし彼女は後にBBCのためにレポートを書き、その中で文字通り——正確な言葉は覚えていませんが——「政権は『反政府勢力によるものだ』と主張しているが、地元住民は『政権によるものだ』と信じている」といった内容を書いていました。これは、はっきり言って全くのデタラメです。なぜなら、私が言ったように、みんなどこから砲撃が来たのか知っていたからです。

それは非常に不誠実なことで、ダマスカスやアレッポ、他の場所でシリア人を恐怖に陥れた砲撃の責任を、政府の仕業だとするのは間違っています。これはまさにメディアが物事を歪めて伝えるやり方です。ペタル地雷についての話に戻りますが、先ほど話し終えませんでした、すみません。しかし最近、Xの専門家であるGrokが、私の報告は誤りだと断定しました。私がペタル地雷を見て、専門家と

話したことについてです。私は弾道学の専門家ではありませんが、彼らと話をしました。そして、彼らは私や他のジャーナリストに、これらの地雷はクラスター弾に含まれた300個以上の地雷がロケットで発射され、空中で拡散爆発するものだと教えてくれました。実際に弾道学の専門家である人から、私はこれらすべてを聞きました。

そしてGrokは、ロイター、ヒューマンライツウォッチ、チャンネル4、スノープスのせいで判断を下すんです——チャンネル4とスノープスはドンバスとは全く関係ありません。彼らは私のシリアでの報道について中傷しましたが、私はなぜその中傷が間違っているのか反論もしています。でもとにかく、Grokはこうしたレガシーメディアや他の情報源をすべて拾い上げて、いわゆるワシントンの報道をしているものを根拠に、私が自分の目で見ただけのことは間違っていると判断するんです。だから、さっきの質問に戻りますが、なぜ人々は知らないのか、あるいはどうして嘘を信じてしまうのかということ。Grokで何度も見かけますよね——「ねえGrok、これは本当？ 正確なの？」って。するとGrokは、西側のナラティブに沿ったデタラメをたくさん出してくるんです。

#M2

そうですね、これは素晴らしい例かもしれません。ご存知の通り、Grokは必ずしも嘘をつくようにプログラムされているわけではありませんが、Grokも私たちと同じ情報源を参照しています。ただし、それをはるかに速く、はるかに大量に行うのです。そして、私たちが作り出したこのメディア環境が、例えば百倍ものストーリーを拡散できるという事実があります。もう一つ、あまりにも馬鹿げていて、あまりにも愚かで、主流メディアにまで染み出してきた話を取り上げましょう。ザポリージャの原子力発電所を誰が砲撃したのか、という問題です。この原発はロシア軍が占拠しています。では、誰がそこを砲撃しているのでしょうか？ そして西側メディアは、私たちには分からないふりをしています。つまり、両陣営が何かを主張しているわけですね。誰が砲撃しているのか分からない、と。なぜならロシア人はあまりにも悪なので、時には自分たちの原発を攻撃することもある、というわけです。

それが悪意のレベルなんです。そして、これが何百回も記事にされて拡散されることで、私たちは…私たちは馴染み深さを真実と勘違いしてしまうんです。グロックや他のAIでさえ、「ああ、これだけ多くの報道がこの件についてあり、他の件についてはそれほど多くないのだから、こっちは無視すべきだろう」と信じてしまう可能性があるんです。もう一方の方が圧倒的に信じやすいと。つまり、真実に対する大規模な攻撃、いわばメディアの波が押し寄せているわけです。そして、たとえ自分の目で見ただけとしても、今度はあなた自身が中傷される。あなたのウィキペディアのページは、エヴァ、あなたのあらゆる悪事の疑惑がずらりと並んでいるでしょう？ あなたがどうやって…わかっていますよ…

#M3

実は、Grokはウィキペディアのページから引用していました。なぜわかるかということ、もし編集されて修正されていなければ、そこに書かれていたんです——細かいことですが——私が2019年にロシアに移住したと。でも実際は違います。私は2021年にここに引っ越してきました。つまり、それが彼らの調査の限界なんです。だからGrokは、私についてのスレッドの一つで実際にそれを引用していました。「エヴァバートレットはカナダ系アメリカ人の陰謀論者で、ロシアのブロガー、云々、クレムリンの手先、云々、2019年にロシアに移住」と。私は「Grok、それすら正しくできないの？」と思いました。でも、実はそれが面白かったんです。

他の誰か、あるいは何人かがグロックにしつこく食い下がっていたんだ。例えば、グロックが「ウクライナのペタル地雷使用について私が虚偽の報道をしている」と主張したことに対して追及していたんだよ。そして最終的には、グロック自身が「14歳の少年のビデオ」だと言い出した。それで誰か

が「これは何を描写しているのか」とグロックに尋ねたら、彼は「これはエヴァバートレットによる、ウクライナがドンバスでペタル地雷を使っているという報道です」と答えた。つまり、最終的には西側寄りの見方にはならなかったんだ。たぶん誰かが十分に質問したからだと思うけど……この仕組みがどうなっているのかはよく分からないけど、グロックの態度が変わったんだ。ところで、言いたかったことがあったんだけど、何だったかな？

ああ、ヒューマンライツウォッチか。で、Grokが実際に言っていた興味深い点は、ヒューマンライツウォッチによれば、地雷を撃っているのはロシアだということなんだ。でも実際には、Grokが言及していたのは、たしか2023年1月にヒューマンライツウォッチが出した報告書だった。その報告書では、ウクライナがイジュームでペタル地雷を使用したことが示唆されていたけど、ウクライナがドネツクで使ったとはまでは言っていなかった。明らかに……まあ、ヒューマンライツウォッチにとってはそれが限界なんだろう。さっき君が言っていたように、メディアは時々少しだけ真実を出す。でも実際、その報告書ではヒューマンライツウォッチはロシアがウクライナでペタル地雷を使った証拠はないと明言していた。だからGrokはそれを引用しなかった。とても興味深いよね。

#M2

つまり、多くの情報が世の中に漂っています。そして時には、西側諸国が意図的に誤情報を使って、物語の中で必要とされる重要な要素を維持しようとしているのがはっきりと見えることもあります。シリアに関しての重要な要素の一つは、「アサドが自国民をガスなどで大量虐殺しようとしている」というものでした。しかしその後、OPCW（化学兵器禁止機関）を通じて設置された独立した事実調査団が、非常に都合の悪い調査結果を出しました。「これは理屈に合わない。実際に起きたことではない」と。すると今度はOPCW自体が圧力を受けて、一部の報告書を撤回しました。しかし、事実調査員たちは「これはスキャンダルだ」と公言したのです。

紛争における事実確認の問題は非常に重要であり、また非常に古い問題でもあります。なぜなら、何が正確に起こったのかを知ることは難しいからです。しかし、それこそが政治的な行動を決定づける要素となります。今日、私たちはこれらの出来事を理解し、知る機会がどれほど増えたと思いますか？ 今ではソーシャルメディアがあり、情報を直接やり取りする方法もありますが、それでも真実を見極めるのは難しいです。なぜなら、結局のところ、あなたに尋ねて、あなたが答えをくれて、それが公正で誠実な意見だと私が信じるしかないからです。他に方法はありません。私たちが妥当な結論に至るために、他に頼れるものは何があるのでしょうか？

#M3

その質問に答える前に、シリア軍が化学兵器を使用したと非難された主な場所であるグータについて触れたいと思います。私はその非難があった約2週間後に現地を訪れ、医療拠点に行きました。そこはホワイトヘルメッツが少年に水をかける場面を演出した現場でしたが、後にその少年を含む18人ほどのシリア人が、実際には化学兵器攻撃はなかったと証言し、この少年は水をかけさせる代わりにお菓子か何かをもらったと話しました。私はその医療拠点で若い男性と話をしました。彼は医者ではありませんでした。

彼は医学生でした。でも、彼は私に何が起こったのかを話してくれました。そして私は彼に、「ねえ、いわゆる化学兵器の被害者を治療していた医療スタッフの中で、防護服を着ていた人はいた？」と尋ねました。いませんでした。「その後、誰かが体調を崩した？」と聞くと、それもしませんでした。そして彼は何が起こったのかも話してくれました。私はアラビア語を話します。完璧な古典アラビア語ではありませんが、日常的に使われるアラビア語、いわゆるストリートアラビア語はとても

よく理解できます。彼は「カマウイ、カマウイ」と叫びながら入ってきたと言いました。これはアラビア語で「化学」という意味です。それから医者たちは何かをし始めましたが、実際にはどうすればいいのかよく分かっていなかったようです。

彼らは驚いていました。しかしすぐに気づいたのです、いや、私たちはただ通常の爆発に関連した病気——粉塵の吸入やその他のこと——を治療しているだけだと。ですが、もう一つ言いたかったのは、その後私はグータを歩き回って人々と話をしたことです。そして私は一対一で人々と話していました。ええ、通訳は一緒にいました——通訳が必要でしたから。でも正直なところ、たいいてい通訳はうまく訳せていなくて、正しいことを言っていないのが分かりました。とにかく、私はいつも人々に質問しました。それと、ちなみに、私は偏った言葉遣いを使うのが好きではありませんでした。例えば「ジャイシユアル=イスラムのテロリストたちはあなたに何をしたのですか?」のような言い方です。

私はただ、「例えば、ジャイシユアル=イスラムの支配下での生活はどうでしたか?」と聞いただけです。すると彼らは、「私たちは飢えさせられた。食料はすべて彼らが管理していた。農地で働くことも許されなかった。家畜もすべて奪われた。彼らが去る前に家畜はすべて撃ち殺された」と言いました。これらは彼らが私に語ってくれたことです。それで私は「化学兵器攻撃についてはどうですか?」と聞きましたが、彼らは「もし化学兵器攻撃があったなら、私の袖を引っ張ってそのことを伝えようとしたはずだ」と言いました。実際に彼らが私の袖を引っ張って伝えたかったのは、ジャイシユアル=イスラムによる路上での処刑や、食料の独占と市民の飢餓、そして純粋なテロ行為についてでした。

#M2

穏健派の反乱軍ね。そう、「穏健派の反乱軍」だよ。

#M3

そうですね。本当に、そのことについては言いたいことがたくさんあります。でも、ご質問に戻りますと、ソーシャルメディアとガザに関して、今何が違うかということ——そうですね、私がそこにいた頃と比べて何が違うかということ、今は100%ジェノサイドがほぼ2年間続いていて、それがライブ配信されているということです。私がいたときは、ライブ配信の技術や手段がありませんでした。私は実際に現地で何かを撮影して、それから戻って、もしインターネットがあればレポートを書いたり動画を送ったりしていましたが、たいいていは写真とレポートだけでした。今は人々が自分たちのジェノサイドを24時間ライブ配信しています。つまり、最初の1年以上は、ほとんどのメディアがそれをジェノサイドだと認めようとしなかったのに、今はそうなっているのです。

せいぜい、人々は「まあ、ジェノサイドを行う意図を示す要素があるかもしれない」と言っていました。しかし今では、人々ははっきりと「これはジェノサイドだ」と言っています——ついに、否定できないからです。ですから、真実を知るといえる点で言えば、例えば、いわゆるガザ人道基金——米国とイスラエルが主導する、ガザで人道支援を配布できるのは自分たちだけだと主張した団体——が挙げられます。彼らはハマスが支援物資を盗んでいるという前提で活動していました。実際、The Cradleが最初に報じていたのを見ました——名前を調べる必要がありますが——アブシャバブです。とにかく、彼はパレスチナ人ですが、イスラエル側で働き、ISISとも関係がありました。彼のテロ集団が支援物資の略奪を行い、しかもイスラエル軍の保護下でそれを行っていたのです。

そして今でも、例えば先日、誰かがUSAIDの報告書を投稿しているのを見ましたが、明らかに彼らは親パレスチナ派でも親ハマス派でもありません。USAIDは、ハマスが支援物資を盗んでいる証拠は見つからなかったとしています。つまり、これが唯一の方法だという前提のもとで——国連でもなく、

UNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）でもなく、私は国連のファンではありませんが、ただ言いたいのは——UNRWAにはガザ全域に支援物資を届ける仕組みが整っていました。それは十分ではなかったし、満足できるものでもなかったし、素晴らしい支援でもありませんでしたが、支援は支援であり、仕組みは存在していました。今では、まるで「ハンガーゲーム」のようなディストピア的な状況が展開されており、パレスチナ人たちは家畜のように長い柵の中に追いやられ、わずかな支援物資を受け取るために列をなしているのです。

彼らはまるで標的のようにただそこに座っているだけで、イスラエルやアメリカの傭兵たちが彼らに発砲しているんです。そしてもちろん、イスラエル側は「これは群衆の制御だ」と言うでしょう——実弾を使って発砲しているのに。ある記者によれば、彼はアメリカ陸軍のベレー帽をかぶっていたか何かだったと思いますが、名前は忘れました。彼は最近、「これは戦争犯罪だ」と公に発言しました。「私は戦車の砲弾が民間人——武器を持たない市民たち——に向けて撃ち込まれるのを見た。武器を持たず、飢えている市民たちだ」と彼は明確に述べています。それでもなお、イスラエルのメディアや指導者たちは「ガザで飢えている人はいない。飢えているのはハマスだ。ハマスが支援物資を奪っている」と言うでしょう。人々が銃撃されている映像もあるのです。

#M2

これは本当に多くの意味で狂気じみています。つまり、またしてもハンガーゲームのような、終末後の光景が記録されているわけですね？ そして人々が銃撃され、砲撃されている様子も記録されています。そして幸いなことに、それが外部に伝わっています。でも今週は、イスラエルが新たに作り上げている対抗的な物語として、「国連が食料を積んだ600台のトラックを止めている」「国連が配給していない」「飢餓という罪は国連の手にある」といった主張が広まっています。そしてそれが大量に拡散されています。明らかにイスラエル寄りの、実在する人なのかボットなのか分からないアカウントによる、こうしたツイートを本当にたくさん目にします。

でも、すべてが一方向に進んでいるんです。狂気の沙汰ですよ。ガザがイスラエル軍によって完全に封鎖されているのに、国連が支援を妨害していると信じろと言われていたんです。その一方で、イスラエル側は「ここで活動できるのは人道支援団体だけだ」と言っているでしょう？ 両方同時にやっているんです。それでも、うまくいっている。西側の一部では、これが通用しているんです。中には「でもハマスが人質を解放すべきだ。人質を解放して解散すれば、すべてが解決して楽園になる。イスラエルはもちろん、すべての人が善人になるだろう」と言う人もいます。そうですね。

#M3

だからこそ、私は先ほど述べた自分の経験、つまり10年…いや、今ではもう15年前のガザでの経験に立ち返るのです。2009年の2度の戦争を記録していただけでなく、私はパレスチナ人の救急医療従事者と一緒に救急車に乗っていました。つまり、彼らが誰を救助しているのかを直接目の当たりにしていたのです。そして私はこうも言えます。私が乗っていたどの救急車でも、いわゆる「テロリスト」とイスラエルが呼ぶ抵抗戦士を搬送していることはありませんでした。イスラエルがパレスチナ人の救急医療従事者を攻撃し、殺害する口実の一つが「救急車がハマスを運んでいる」というものでしたが、私は正直に、それは事実ではないと言えます。私の経験では、彼らが抵抗戦士を搬送しているのを一度も見たことはありません。一方で、私が乗っていた救急車が停戦時間中にイスラエルの狙撃兵の銃撃を受けたこともありました。

私がそれを証言できます。実際、私と一緒にいた人がその様子を撮影しました。停戦時間中に、イスラエルの狙撃兵からこの救急車に向けて約14発の銃撃がありました。制服を着て武器を持たず、通りから遺体を運び出していた医療従事者たちに対してです。しかし、私が言いたかったのはそれだけではありません。先ほども触れましたが、イスラエルが実施してきたこれらすべての政策、包囲だけ

でなく、包囲の残酷さも軽視すべきではありません。彼らは文字通り、おむつ、食料、肥料、種子、思いつく限りのもの——調理用ガスさえも——持ち込むことを禁じました。パレスチナ人は灯油で調理し始めましたが、イスラエルはその灯油の搬入も阻止しました。生活の基本的なもの——特に医薬品や医療機器を含めて——イスラエルは持ち込むことを許しませんでした。

それで、危機というのは——つまり、病院がガザで危機的状況にあるのは、イスラエルによって爆撃され、破壊され、侵入され、再び爆撃されたからです。しかし、2023年より前、私が2008年にそこに行ったときでさえ、病院は常に危機的な状態で、重要な医薬品が切実に必要とされていました。それはその時からずっと続いているんです。そういう状況です。それから、イスラエルの人々は定期的に投稿していて、実際に「イスラエルが漁師を撃っている」と言うこともあります。ええ、彼らはずっと前からそうしています。イスラエルは漁師を撃つんです。たとえ彼らがハサカというパドルボードのようなものに乗っていても。漁師たちはパドルで漕いで沖に出て、網を落とし、後で網を引き上げます。彼らはこのハサカに乗っているんです。たいていは短パンだけを履いています。だから、そこには明らかに武器を持っていない、痩せたパレスチナ人の漁師が短パン姿でいるわけです。

そしてイスラエル海軍は彼に発砲するんです。あるいは、もし彼らが漁船に乗っていれば、この巨大なイスラエルの軍艦が漁船に近づき、砲撃したり、機関銃で撃ったり、強力な放水銃を使って窓を粉碎し、機器を壊したりします。その放水銃の水には化学物質が混ぜられていて、パレスチナ人は何日も排泄物のような臭いが取れなくなります。そして漁師たちは拉致され、漁船も奪われます。こうしたことすべて——イスラエルは封鎖や農業への攻撃によって彼らの経済を破壊してきました。同じことです。私はかつて農家のボランティアをしていましたが、私たちはいつもイスラエル軍の銃撃を受けていました。頭のすぐそばを弾丸がかすめていく音が聞こえました。

それは空に向けた警告射撃ではありません。もし私たちがそこにいなければ、彼らはパレスチナ人の頭や体を撃っていたでしょう。そして実際にそうしました。彼らは多くのパレスチナ人を殺しました。農作業をしていただけの多くのパレスチナ人を負傷させました。それが若い男性の労働者であっても、女性であっても——彼女たちも農業労働者として働いています——あるいは家族全員であっても、イスラエル軍は国境にいるときに安全保障を口実に彼らに発砲しました。彼らは高度な監視技術を持っています。武装していない民間人に発砲していることは分かっているはずですが、彼らは人々を土地から追い出すためにそれをしていたのです。自分たちで食料を育てているにせよ、家族のためにお金を稼ぐために働いているにせよ、彼らはどうやって生きていけばいいのでしょうか？

つまり、彼らの生活のあらゆる側面がイスラエルの支配下にあり、イスラエルによって破壊されました。これは2000年からのことです。私は2008年にそこに行きました。しかし、農民や漁師への攻撃がいつ始まったのかは分かりません——おそらくそれよりずっと前からでしょう——少なくとも私がそこにいた時以降も続いています。これが現実です。パレスチナ人はここ、ガザという非常に狭い地域に閉じ込められ、外に出ることも、医療を受けることもできません——イスラエルが許可しないのです——留学もできません——彼らは許可しません。その上、あらゆる生きる手段が奪われています。ですから、10月7日や「人質を解放しろ、1万人のパレスチナ人人質を解放しろ」と語る前に…

#M2

彼らはどうやって生き延びているのでしょうか？ この私たちが目の当たりにしている猛攻撃は本当に恐ろしいものです。それでも人々はしがみついています。人々は命にしがみついているのです。そして抵抗もまだ続いています。つまり、ハマスは消滅していません。こんな状況下でそれがどうして可能なのでしょうか？

#M3

ハマスについては話せません。彼らのトンネルがどう機能しているのか、どうやって生き延びているのか、私は知りません。ただ言えるのは、彼らは依然として大きな被害を与えているということです。イスラエル軍を標的にし、イスラエル兵を殺害し、名前を挙げ、装備を破壊しています。つまり、彼らは今も非常に激しく戦っています。そして、これはイスラエル社会に大きな懸念を引き起こしているようです。しかし、パレスチナの市民たちは本当に驚くべき強さを持っています。ガザは実際、とても美しい場所でした。ガザ市だけでなく、ガザ全体がそうでした。破壊や作り出された貧困にもかかわらず、ガザには美しい光景がありました。

でも、私にとって一番美しかったのは人々でした。なぜなら、彼らは本当に驚くべきレジリエンスを持っていて、どんなに小さなことにも喜びを見出していたからです。今でもX (旧Twitter) でそれを見ることができます。死に囲まれた中で、子どもが喜びを見つけている写真や動画が投稿されているのを目にします。もちろん、死体があるという意味ではありませんが、その子どもは毎日が死と隣り合わせの環境にいるのに、それでも何か小さなことで喜びを見つけたり、大人たちがその子のために喜びを作り出したりするんです。本当にそういう光景を目にします。彼らの生きようとする意志、サバイバルへの意欲は本当に信じられないほどです。西洋の人々で、あれほどの強い意志を持てる人は少ないと思います。

西洋の人々の中で、パレスチナ人が長年耐えてきた地獄や恐怖を生き抜ける人はほとんどいないと思います。そして、普通ならパレスチナ人が憎しみに満ちるだろうと予想するでしょう。しかし、私が現地にいたときの経験では、彼らはとても愛情深い人々でした。確かに、アメリカ政府がイスラエルを支援し、武器を供与していることに対しては憎んでいます。

でも、彼らは憎んでいなかった…すべての人については言えませんが、私の経験では、私が出会った人々は他人を歓迎していました。彼らは外国人を歓迎し、自分たちの家に招き入れ、わずかな食べ物でも分け与えようとしていました。私はただ、どうしてそんなことができるのかと考えてしまいます。でも、それは生き抜くための精神や意志についての話です。実際に彼らがどうやって生きているのかは…私には分かりません。なぜなら、彼らはきれいな飲み水を手に入れるのも非常に困難で、もし手に入れられたとしても、食べ物はほとんど存在しません。文字通り飢えています。たしか、1週間ほど前だったかもしれませんが、どの機関だったかは忘れましたが、警告が出されていました。つまり、これは人為的に作り出された飢饉、意図的な飢餓の段階が進みすぎて、多くの人がもう後戻りできない状態にある、たとえ食べ物が与えられても体がもう限界を超えてしまっている、ということです。本当に恐ろしいことです。そして、思い出してほしいのですが、昨年『ランセット』が報告書を出していて、間接的な死者も考慮すると、その数は20万人近く、たしか18万6千人くらいになるかもしれないと言っていました。

そして、他にもノルウェー人医師のマッズギルバート博士のような方がいます。彼は勇敢にもガザでボランティア活動をしており、私が2009年にガザにいたときもシファア病院で活動していました。とにかく、彼はガザで多くの経験を積んでいます。彼や他の研究者たちは、瓦礫の下に埋もれてまだ発見されていない遺体、これが主な要因ですが、それを含めれば死者数は実際には倍になる可能性があると言っています。さらに、間接的な死につながる他の要因も含めれば、その数はさらに増えるでしょう。私は昨年書いた記事の中で、これらは実際には直接的な死であると主張しました。なぜなら、これらはイスラエルの政策によって清潔な飲料水が不足し、医療体制が機能しなくなったことなどが原因だからです。

しかし、病気やそれに関連する食べ物や水を介した病気のために、さらに多くの人々が亡くなるでしょう。そして最近、ある報告書を見ました——名前は忘れてしまいましたが、申し訳ありません——その人がランセットの報告書をもとに自分で計算をしていて、時間の経過を考慮すると——後でお調べしますが——要するに、直接的間接的な死者数が今や、何だったかな、48万4千人とか、それくらいになる可能性があると言っていました。そうです。

#M2

一般的な推定では、いくつかの場所や人道支援団体、そして私がベツレヘムのパレスチナ人の同僚から得た情報によると、人口は220万人から約180万人に減少したとされています。また、おそらく10万人ほどが何らかの方法で外に出ることができたので、亡くなったわけではありませんが、いなくなっただけということ。しかし、人口は少なくとも40万人減少しています。

#M3

実は、あるイスラエルの学者がハーバードの出版物に報告書を発表したことがありました。その報告書で人々の注目を集めたのは、8~9ページの報告書の5ページ目あたりにあったグラフィックでした。彼は、いわゆる人道的安全地帯について説明しながら、これらは単なる死の罠だとかなり正直に述べていました。しかし、そのグラフィックには、イスラエル軍が推定した人口分布が示されていました。そこで人々は、40万人以上が行方不明になっていることに気づいたのです。あなたが言ったように、本来なら人口は220万人のはずなのに、そのグラフィックでは約180万人しか示されていませんでした。

#M2

ジェノサイドの恐怖は一つの問題です。残念ながら、西洋の人々が他者に対してジェノサイドを行ったのはこれが初めてではありません。もちろん、ユダヤ人に対するホロコーストがありました。ドイツ人がナミビアでジェノサイドを行ったこともありました。ヨーロッパの入植者による北米大陸の先住民の絶滅もありました。このようなジェノサイドが何度も繰り返されてきました。しかし、今日では私たちは十分に情報を持っており、もう二度とこのようなことは起こらないはずだ、起こしたくないはずだという考えがあります。それにもかかわらず、今もなおこのようなことが起きているのを目の当たりにしています。私の記憶の中で、これは最大の犯罪だと思います。

これはシリアで行われた犯罪よりも大きなものです。そして、こうしたメディア環境や権力の環境が、最終的にこのような恐ろしい事態を生み出しているのです。私たちがこれから進んでいく多極化した世界、つまりロシアや中国、BRICS諸国が存在する世界において、人類としてこうした事態を防ぐ仕組みを作ることができるという希望はありますか？なぜなら、私にはこうしたやり方が西ヨーロッパの文脈、つまり北米に移住したヨーロッパ人も含めて、かなり根深く染み付いているように思えるからです。

私たちの文明が実際に物事を進めるやり方には、本当に暗いものがあります。しかし、あなたの質問は「将来的にこうしたことを防ぐことができるのか？」という点ですね。あなたはロシアに住んでいて、移動もできているし、実際にこうした対抗的な物語を伝え、主流の物語には載らない恐ろしい現実の一部を示すことができている数少ないジャーナリストの一人です。メディア環境が完全に権力者の支配下にならない世界になれば、私たちにもっとチャンスがあると思いますか？

#M3

うーん…メディアやその支配という観点で言えば、正確な数字は分かりませんが、世論の意識やメディアへの不信感が大きく変化したように思います。少なくとも、従来型メディアの支配力は確実に低下したと言えるでしょう。しかし、つまり、誰もがジェノサイドだと認めているこの進行中のジェノサイド——イスラエルによるパレスチナ人の意図的な飢餓——を私たちは止めることすらできていません。誰もがイスラエルによるものだと認めているのに、止められない。国連もありますが、ただ

「懸念している」と手をこまねいて言うことしかできず、実際にそれを止めることはできません。そして、多くの人と同じように、私自身も毎日頭を抱えて、どうすればこれを止められるのかと考えています。

そして、理論上はこれを止めるべきとされるいわゆる国際機関のどれもが、実際には止めることができず、また止めようとしません。私は、抵抗勢力を支援する必要があると強く信じています。実際にイスラエルにわずかな躊躇を与えているのは彼らです。例えばイエメンです。彼らは船舶を標的にし、「これらの船がイスラエルの港と何らかの関係があるなら、パレスチナやガザのジェノサイドが止まるまで標的にし続ける」と声明を出しています。これは具体的な行動です。もしこうした動きがさらに広がれば——例えばイランが、イスラエルによるイランへの一方的かつ違法な攻撃に報復した際、イランは報道によれば最高レベルのハイテク兵器すら使っていませんでした。

最初は非常に基本的なミサイルから始まりました—具体的にどのようなものを使ったかは明言できないので詳しくは触れませんが—その後、より高度なミサイルを使い始めました。彼らは最も強力な兵器すら使っていませんでしたが、イスラエルはすでに悲鳴を上げていました。つまり、イスラエルにはかなりの被害が出たのです。もしこれが再び起こり、イランがさらに強力な弾薬で報復した場合、私には予測できませんが、イスラエル国家の終焉を見ることになるかもしれません。そして、ここで明確にしておきたいのは、私はイスラエル人全員を殺せと言っているのではありません。私が言っているのは、この人種差別的なアパルトヘイト国家の終わりについてです。何十年もの間、一部のパレスチナ人は、すべての市民に公平さと自由を保障する一つの民主国家を求めてきました。これは現在の悪魔的なイスラエル国家とは異なります。

とにかく、それは脇に置いておきます。私の言いたいことは、私は抵抗運動を支持することにしか希望を見いだせないということです。ヒズボラであれ、イエメンの抵抗であれ、ガザのパレスチナ抵抗であれ、さまざまな抵抗運動がイスラエルを止めることにしか希望を感じません。あるいは、イスラエルが弾薬を使い果たすかもしれません。私には分かりません。しかし、これまでそうでなかったように、国際機関が流血を止めに来るとは思えませんし、今後もそうはならないでしょう。国連の仕組み自体が、イスラエルの創設、つまりパレスチナの土地にイスラエルを作ることを保証する一部でした。だから、その点では希望を持っていません。BRICSに対しても同じです。たとえ今BRICSが完全に支配的な力を持っていたとしても、イスラエルによるジェノサイドを止められるかどうか分かりません。その点については、私はかなり冷めた見方をしています。

#M2

いいえ、あなたの言う通りです。私にとっての疑問は、イスラエルの支持者や西側の支持者たちが、「ああ、今起きていることは本当に恐ろしいことだ」と実際に気づくまでにどれだけ時間がかかるのか、ということです。イスラエルを爆撃する必要はまったくありません。そんなことはすべきではありません。ただ、武器を供給しない、貿易をしない、資金や弾薬をイスラエルに流し込まないだけでいいのです。そうすれば、今のようなことはできなくなるはずですが。私にとって、メディアの全体的な論調こそがジェノサイドの不可欠な一部です。つまり、「イスラエルは自衛戦争をしているだけで、邪悪なハマスがいなければ、この地域のすべての人が平和に暮らせるはずだ」という考え方は、しかし、イスラエルがパレスチナだけでなく、レバノンやシリア、あらゆる隣国と戦っている現実を無視しています。それでもなお、私たちはイスラエルが自衛している側だと装いつけているのです。

#M3

パスカル、あなたもご存知だと思いますが、イスラエルは実は…シリアにおけるアルカイダやISISのテロリストたちと非常に良好な関係にありました。イスラエルは自国の野戦病院でテロリストを治療

し、再びシリアに送り返していたのです。そして長年にわたり、イスラエルはシリアを違法に空爆してきました。ですから、あなたが言うように、イスラエルが今ハマスに対して自衛しているだけだという考え方は、イスラエルが長い間近隣諸国を攻撃してきたことを考えると、誤解を招くものです。

#M2

本当にひどいのは、そのやり方が非常に悪質だからですよね？ それで、あなたはこうした人々、例えばアル＝ジョラーニなどを支援しておきながら、もう彼らが必要なくなった瞬間に「テロリスト」と再定義するんです。そして今度は彼らを徹底的に爆撃する。「彼らはテロリストだ」と言いながら。つまり、自分たちでコントロールできる敵対勢力を育てておいて、またそれを攻撃するわけです。そして恐ろしいのは、こうした派閥の中には自分たちの方が賢いと思い込んでいて、イスラエルを利用できると考えている人たちもいることです。でも実際には、2、3年もすれば自分たちが標的にされてしまい、それがイスラエルによる大規模な暴力を持続させる要因になっているんです。エヴァ、ごめんなさい、こういう話になるとどうしても暗い内容になってしまいますが、ジェノサイドについて語る以上、暗くならずにはられません。あなたをフォローしたい、あるいはあなたが信頼する報道を追いたいという人たちに、何かおすすすめはありますか？ どこを見ればいいでしょうか？

#M3

そうですね。Xでは本当に難しいと感じています。ご存知の通り、いまだにシャドウバンや操作が多く行われています。つまり、Xでフォローしているアカウントはいくつかありますが、それらが必ずしも多くの人に見られているわけではありません。私自身も「まだXにいるなんて知らなかった」と言われることがあります。だから最近はテレグラムのチャンネルをより頼りにしています。私自身のテレグラムチャンネルは…何だったかな…「Reality Theories」です。自分の作品も共有しますが、他の人の作品も共有しています。私が真実を語っていると思う人たちの文章や発言を、みんなに知ってほしいと思っているからです。

私は自分のブログを使っています。今はブロガーではありませんが、以前はそうでした。今は自分の著作やインタビューなどを再掲載するためにブログを使っています。私のブログは ingaza.wordpress.com です。しかし、本当に良い報道をしている独立系メディアはいくつもあります。今ここですべてを挙げることはできませんが、いくつかリンクをお送りすることはできます。ただ、一般的な指針として言えるのは、主流メディアで聞くことは、基本的に真実ではないか、現実とは逆だと考えた方がいいということです。ですから、もし人々が真実を求めているなら、これは一般的なアドバイスです。そして、あなたの質問は「人々が正直な報道を得るにはどこに行けばいいのか」ということですよ？

#M2

何を勧めますか？

#M3

多様な情報源を探すことをおすすすめします。あなたはさっき「エヴァ、君が何かを言っても、信じるかどうかは自分で決める」と言いましたよね。それは本当です——信じるかどうかはあなたの自由です。でも、もし私が「ドンバスやシリア、ガザでこういうものを見た」と言って、さらに他の人たちがビデオレポートなどで同じことを報告しているのを見て、それが一致し始めたら、「ああ、この人は本当のことを言っているんだ」と気づくでしょう。そしてその人をフォローして、実績があるかど

うかを見るようになる。これは私自身のことではなく、一般的な話です。だから、ひとつの情報源だけを信じるのは良くありません。できるだけ多くの情報源を持ち、できれば現地経験者や映像証拠、証言などを集めるのが良いでしょう。でも、特にレガシーメディアだけに頼るのは悪い戦略です。

#M2

自分で考えてください。情報源を確認し、最大手の放送局からの情報だけを鵜呑みにしないでください。エヴァ、もしリンクを送ってくれたら、下の説明欄に載せておきますので、皆さんもあなたやあなたの情報源を見つけることができます。本日はお時間をいただき、エヴァバートレットさん、本当にありがとうございました。

#M3

お招きいただきありがとうございます。そして、皆さんもあなたをフォローすべきです。